

内視鏡検査で鎮静薬を希望する方へ

鎮静薬を使用すると、眠くなるような感じがあり、検査を楽に受けることができます。

(完全に眠るものではありません。薬の効果には個人差があります)

しかし、副作用として呼吸が弱くなる・血圧が下がる・ふらつくなど身体に大きな負担がかかります。安全に検査を受けて頂くため、鎮静薬を使用できない場合があります。また、事前に考慮すべきことがあります(下記)。

検査終了後1~2時間は経過を見させていただき、ふらつきがなく意識がはっきりしていることを確認してから帰宅して頂きますので、通常よりお帰りの時間は遅くなります。

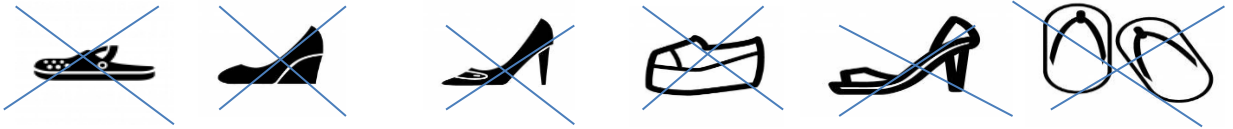
＜鎮静薬を使えない方＞

- ・75歳以上の方
- ・当日朝糖尿病薬を使用した方
- ・腎障害、腎不全、透析中の方
- ・睡眠時無呼吸症候群
- ・妊娠中・授乳中
- ・歩行が不安定な方
- ・高度肥満(BMI $\geq$ 35)
- ・急性狭隅角緑内障
- ・高度な不整脈、電解質異常
- ・重度の高血圧
- ・循環動態不安定、心不全、不安定狭心症
- ・急性の呼吸困難
- ・誤嚥を起こしやすい方
- ・重症筋無力症
- ・抗精神薬の長期内服治療例、アルコール中毒など薬物依存の方
- ・薬物中毒
- ・精神状態が不安定で非協力的な方
- ・重度の全身疾患を有し、呼吸循環の予備力が低下している方
- ・以前鎮静薬で身体に変調をきたした方(アレルギー・血圧低下・酸素飽和度低下など)
- ・手の爪にマニキュア・ジェルネイルなどつけている方(1本の指にしているも鎮静薬は使えません)
- ・鎮静薬使用後に転倒などの恐れのある靴を履いている方

ミュール・サンダル・ビーチサンダル・厚底・ヒール(踵に高さがあるもの) 3cm以上

例

後ろのバンドが稼働するサンダル・スリッパ 等



クロックス風 ウエッジソール ハイヒール 厚底 ミュール サンダル
(※スニーカーの様に底がフラットで足全体が覆われているものであれば可)

＜鎮静薬使用について注意点＞

- ・検査後24時間は薬が残っている為、車・バイク・自転車などの運転や飲酒はできません。
- ・帰宅後もふらつき、眠気、頭重感などの症状が続くことがあります。
- ・当日の入浴は湯船につからずシャワーのみにして下さい。
- ・当日は健忘症状が出現する恐れがあるため、重要な判断を必要とする会議や仕事は予定に入れないで下さい。
- ・検査に伴って生じた異常で医療機関(当院を含む)を受診した場合は自己負担(通常の保険診療)をお願いしております。例:注射部位の血管炎(赤みや痛み)など
- ・同日に受けられない検査があります。物忘れ検査・負荷心電図など
2日コースの方は負荷心電図は2日目に変更して行うため、お帰りの時間が遅くなります。
- ・可能な限り、付添いの方と同伴での帰宅をお勧めします。

※追加料金がかかります